

未来世代のために
わたしたちができること



わたしたちのミッション

なぜインドネシアの片田舎で、サトウヤシの繊維を使ったネット作りに私たちが関わるのか。村人の日々の暮らしと生業から紐解きます。

貧しさから違法な金鉱山で危険を犯しながら生きていくことが、当たり前ではないことを知ってほしいのです。

子どもたちの未来に、新しい可能性があることを伝えたいのです。



インドネシア・ゴロンタロ州ボネボランゴ県の住民と協働で実施するサトウヤシ繊維ネットによる土砂流出防止実験（2016年）

連絡先

〒603-8047

京都市北区上賀茂本山457番地4

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

総合地球環境学研究所（地球研）

SRIREPプロジェクト 教授 櫛原正幸

Email: srirep@chikyu.ac.jp

Phone: 075-707-2333

ゴロンタロの

サトウヤシ繊維ネット

未来を紡ぐための
プロジェクト

西トラボロ村の人々の暮らし

ボネボランゴ県中央部の西トラボロ村は山あいの小さな村です。村には小学校しかなく、中学校に行くには、何キロも離れた町へ通わなければなりません。

村の土地は水や土が自然由来のヒ素で汚染されているため、農業にはもともと不向きな地域です。しかし他の仕事と言えば、鉱山で働くか、そこへ人や物資を運ぶためのバイクタクシーぐらいです。



自然豊かな西トラボロ村の風景

金採掘と環境汚染

村人の家計は厳しく、生活のために違法な零細小規模金採掘（ASGM）の鉱山労働者として働かざるを得ない人が大勢います。ASGMでは金を採取する時に水銀を使うため、水銀汚染が周辺地域に広がり、住民に深刻な健康リスクを引き起こしています。



西トラボロ村の住民が働いている熱帯雨林の中に開かれた金鉱山上空写真

村人とサトウヤシ繊維との出会い

西トラボロ村の住民は、自然と共生して暮らしています。たとえば、村人はサトウヤシの幹の周りにできる繊維で伝統的に縄を作る生活知を普段の生活に活用しています。

私たちは日本人技術者と村人と相談し、サトウヤシ繊維で作った縄でネットを作りはじめます。村人の技は一流職人のレベルで、出来上がったネットの正確さと強度に驚かされます。



村の森に散在するサトウヤシの木々

サトウヤシ繊維でネットを作る

今、西トラボロ村では、鉱山で働いていたメンバーを含む村人たちがモオピヤ（MOOPIYA）グループを立ち上げ、私たちと一緒にサトウヤシの加工製品を製造する活動に参加しています。

リーダーのハムザさん（70才）はずっと鉱山で働いていましたが、5年前にその仕事を引退しました。子ども達、孫たちのために新しい仕事をと、サトウヤシからネットを作る活動を始めたのです。



モオピヤグループのリーダーのハムザさん
プトウンガンさん

サトウヤシ繊維ネット製造プロセス



左：サトウヤシ繊維
下：縄をつくる道具
右：できあがった縄



手作業でサトウヤシ
繊維から縄を作る様子



サトウヤシ繊維の縄から
ネットをつくります。
手作りで時間がかかる
作業ですが、従来の植物
繊維のネットに比べると
丈夫で耐久性があります。

今、世界は脱プラスチックをめざし、天然繊維を使う社会へと変わろうとしています。できあがったネットの販路や活用方法については、わたしたちと一緒に活動しているボネボランゴ県と国立ゴロンタロ州大学のメンバーと一緒に検討しています。主には、斜面崩壊や土砂流出を防ぐためにインドネシア国内外で利用される予定です。

水銀ゼロ社会を目指して

今、ゴロンタロでは、水銀を使用する金鉱山での仕事から、天然繊維を用いた新たな生業への転換が始まろうとしています。

地球研SRIREPプロジェクトの目標は、貧困問題を背景とするASGMによる水銀汚染問題の解決の道筋を明らかにすることです。私たちプロジェクトメンバーは、日々地域住民の方々と一緒に実践を進めています。